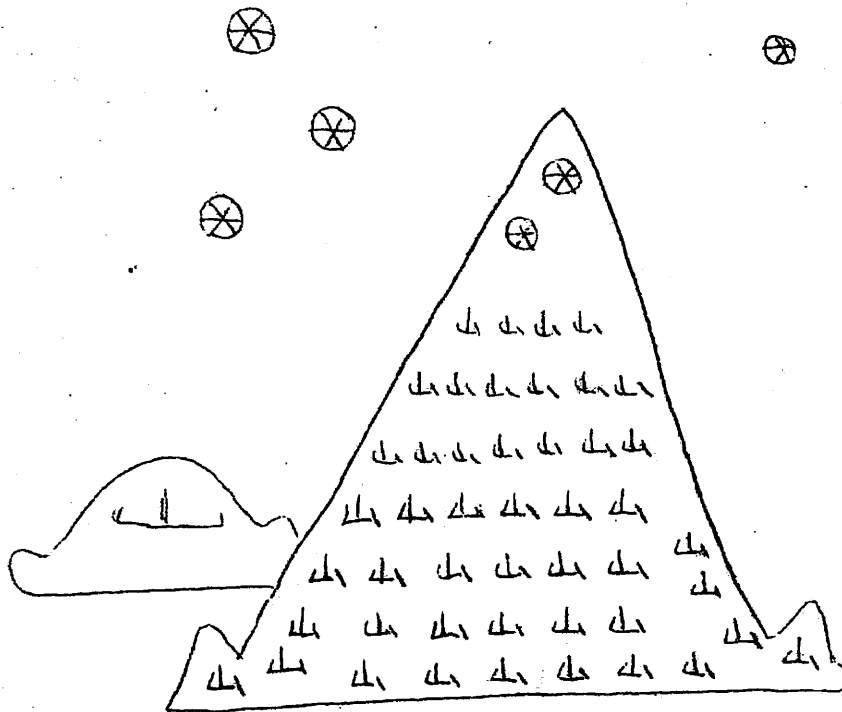


# 53年度 冬山合宿報告書

(+ Pre 冬山合宿)



信州大学山岳会 伊那松本山岳部

— 冬山を冬えて —

槍ヶ岳の全員登頂、久しぶりに全員で1つの  
目的 Peak を踏んだ。皆で重荷を背負い、  
ラッセルをし、次殿して...。これは一つの山行形態で  
あるし、他に多くの形式(やり方)があると思う。  
しかし、個人の特色を生かす信天方式とも云うべき  
もので現行であり、現在の部員数と、今の個人の好み  
と合宿と、その兼ね合いは、更に難しくなるだろう。  
冬山合宿の位置付 = 信天の山岳会の手向性を  
示すと思われる。昔の信天とか、現在の山岳界の流行は  
左右される必要性はないと思う。大学という一つの  
短く、かつ一つの組織の中で、自分が得る、最大の  
最高のものを吸収するよう、また求めるよう努力を  
怠らねば。

〇 下田 章



	橋員 SSS	広サコ尼根	クリヤノ頭	二次の頭の下	竹並々出	権降平と指戸 出の間の丸	丸	権深出の 丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	新ホタカ SSS
26					D 回収	D									
27					D 回収		Fix	D							
28															
29															
30															
31															
1/1															
1/2															

D 回収

D

D 回収

Fix

D

D 回収

D

D 回収

D

D

三次股

D

三次股

三次股

三次股

Fix

A

A 回収

A

A

A

A

12月23日 ⊗ 樫見山 → クリヤ橋 → デポ地点 → T.S.

先発隊 (二俣, 片山, 加藤, 中村) 樫見山 5:40 — クリヤ橋 6:30 — デポ地点 2:20 — T.S. 3:10

ヘッドランプをつけて出発, クリヤ橋までは雪らしい雪がなく, それ以後雪が深く寒さが竹カンをつけずに進む。1600m地点ごろいまではほぼ夏道そいに進むが, それ以後東のルンゼをつめて広尾根に出る。この尾根ではスツシュに悩まされて, 登り下りがある。T.S.をすぎてからトレースらしきものを発見。デポは, ちやんとした台地上の木のもとでおこなう。

後発隊 樫見山 6:05 — クリヤ橋 7:20 — T.S. 12:30

12月24日 ⊗ C1 ルート工作 — クリヤの頭 12:00  
7:00 デポ回収 — 樫見 9:20 → C1

ルート工作队 + デポ (クリヤの頭) C1  
クリヤの頭までは急登であるが, 赤旗もあるし雪は深くない。頭の手前て3回のfix  
第1 fix 直登のスツシュ + 岩  
第2 fix 岩をまくため (頭のすぐ下) トライース + 岩  
第3 fix 第2 fix に続いて直登

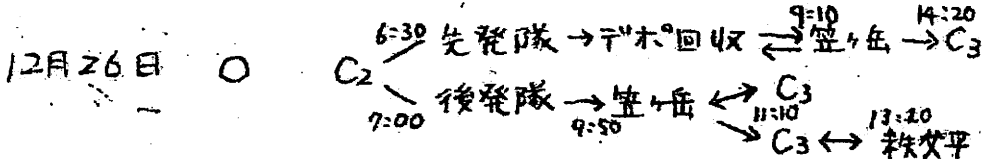
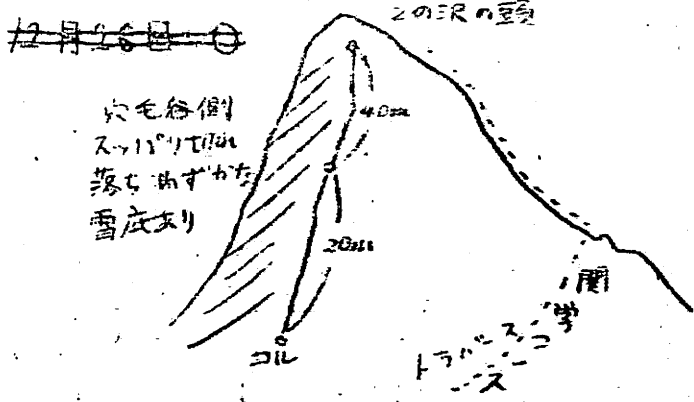
デポ回収 (田中, 加藤, 川原, 中村)  
新雪が積もっていたが, 結局ワカンをつけずいく。樫見では激しい風があった

12月25日 ○ C1 6:30 ルート工作 + デポ  
7:30 後発隊 → C2 (2の沢の) 1:00 2:00 ビーク

先発隊 (片山, 田中, 師田, 山本)  
雪は昨日の降った量が少いため, 昨日のトレースが残っており歩きやすい。9:30 クリヤの頭に着き, デポ半分回収し, クリヤの頭 ~ 2の沢の頭のゴルにデポ。再びクリヤの頭へもとり, 残りのデポ回収, ふたたびゴルへ向う。ゴル出発 2の沢の頭 脚をめぐす。このころから雪が日光でゆるんで歩きにくくなる。2の沢の頭下りに fix 40m + 20m : うすく雪がった急斜面クラストしているところどころはしまつがでている。前に関学パーティがいるためラッセルはない。本日デポ地点で後発隊と合流。2の沢の下りに使ったfix ガイルを田中, 山本が回収する。

後発隊 (下田, 二俣, 加藤, 島谷, 水谷, 石渡, 中村, 川原)  
天幕撤収で氷を落とすのにまこずるが, 雪は表面が堅く深く入らずアイゼンで快適に行く。クリヤの頭直下のfix 通過および

12月26日 〇



○ 先発隊 (下田, 三俣, 加藤, 川原)

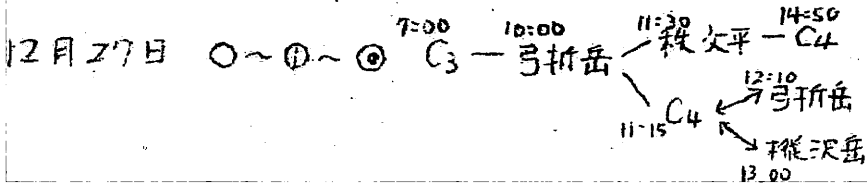
C2を出発し、途中テポ°を少し回収。3ピッチが頂上につく。途中アイゼンがよくまいた。山頂に持上げた荷をテポ°し、昨日のテポ°を回収に下る。1ピッチがテポ°地点へ、途中後発隊とすれちがう。今日もダブルでむしろうにノドガがゆく。1バタバタで笠までむしり、後発隊のテポ°回収隊と会い、記念さつ景。大休止の後、C3へ。途中、肩の小屋で、関学パーティーが登来していた。

○ 後発隊 (片山, 師田, 田中, 山本, 島谷, 中村, 水谷, 石渡)

C2から肩まではスツクスツの雪。肩からはクラスト。笠からの下りは一部ラッセル。他、快速なクラスト。天場は播隆平と坂戸岳間の台地。ここでテポ°隊とテポ°回収隊にわけられ、回収隊は笠ヶ岳のテポ°を回収。(山本, 田中, 水谷, 中村)

○ ルート工作、●テポ°隊 (片山, 師田, 島谷, 石渡)

Essen天立立てた後出発(12:10)秩父平へFixし、テポ°して天場へむしる。この間は平凡な後線。

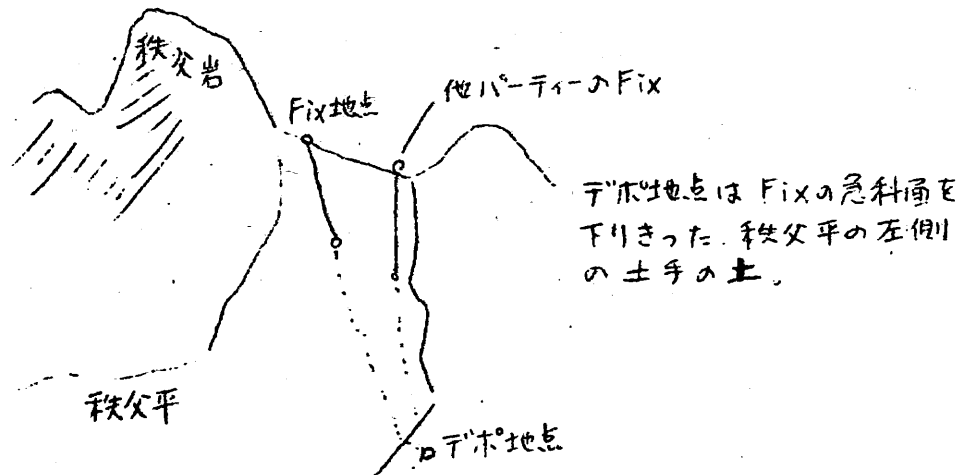


○ ALL MEMBER

徹収後全員で出発。ずとトレスがある。アセチンがよくきくが、強風で少し歩きにくい。Fix地点は雪がやみどりの急な斜面。雪は時々ひきまでもぐりくらい。弓折岳の平地で、(山本、島谷、木谷)パーティーが、団箱をデポし、昨日のデポを回収にもどる。天場は樺沢岳南西稜線と双大小屋への夏道の出合のコレ。(二俣川原、中村)のデポ回収隊が弓折岳へ出発。いつかまにか完全にガスっている。トレスが~~あ~~あ、たから良かったものの、むだらかな稜線がガスらぬと非常に困った。

○ 前進デポ隊 (下田、田中、加藤)

C4を出発し、ハイ松の中に足を突っ込みながら、ラッセルして登る。  
●樺沢岳のピークに段箱とフットザイル、ガチャをデポしてもどる。  
カズマ、視界が悪く、風も強くて冬山みたいだ。



12月28日 ⊗ 強風

沈殿 今まで、ドゥルピで毎日動いたし、まあ、このへんで一日位沈殿が入ってもよいだろうと皆よろこんでいた。

12月29日 ⊕ 9:00 C4 — デポ — 樺沢岳 — 10:00 C4 — 沈殿

昨夜来から風は強く、9時の天気予報まで、待機。ただし、土級生(島谷さんはアセチン故障で残留)は、デポ、ルト工作に行く。気圧配置は冬型となり、10時頃からは、雪も強く降り出す。行動隊は、樺沢岳に、デポをし、しばらく偵察に行くが、天候不良のためひきかえす。その後沈殿となる。積雪は西鏡例に20cm程、以前と似、強風と降雪が続いている。

12月30日 時々◎ 西の空の風強し  
沈殿

12月31日 大晦日 ◎~◎~⊕

沈殿。昼前少し太陽が顔をほくやりとみせていたけど、  
後はずっと荒天。3日連続のトピレは遠い過去と割りつつある。

~~12月~~ 1月1日 ⊗ ~ ① C4 ルート工作 中崎尾根シンクジョン  
7:30 ティポ回収 12:30 C5  
檜ヶ岳 - C5  
16:08

○ C4をやっと回収し出発。沈殿明けの1センチはこたえた。途中  
樺沢岳でティポ回収。風は強くな、2きたか、樺沢岳あたりから  
がすかに日がさしはじめた。西鎌では、強風に吹き上げられた  
スノーダストが実に美しかった。Fixは2ヶ所（硫黄乗越すぐ先の  
岩コブ、右にまぐ。千丈沢乗越100m手前、右にまぐ。）で、短い。  
千丈沢乗越にフイタのが早かったのが、槍へアタックをかける。この  
時も先登隊マド（丸山、師田、田中、鳥谷）が槍の穂先にFix  
をする。初詣での人で混雑する中、全員登頂。当初の  
目的を達成する。山頂は雲海の上、紺碧の空の下にあった。

1月2日 ⊗ ~ ◎ ~ ① 8:10 C5 - 中崎尾根 - 新穂高 14:30

昨日の夕焼けが天候回復かと思わせたが、朝から雪空。  
中崎の鼻までは上った。下あたりで高度差はあまりない。鼻から  
樹林帯のつづら折れを一気に600m下る。ずいぶん夏道通し  
にトレースがあり、長いだけの尾根だった。下山後「スターミ  
ル」Beerで乾杯し、一応解散。



## 《各係から》

### 〈Essen〉

- アルバインバロン、ハロミカンを早めに作ったのは時間的精神的に良かった。
- 準備の日の開始時間の不徹底。
- 油の強いハロミカンだった。マーカリンは去年初に感ったのに「ロード」が11人かいた？
- ラーメン屋が死すまで。
- しもん・チヨウキーはEssen当に立かせた(特に後始末)又、月夜に立かせたであつた。
- 雑糧・雑炊のモチ4コはタダの代りか？

### 〈装備〉

準備から山行までほとんどぬかりなくあつたと思う。

不備は真 } ビルケルバント・ワカンのヒモなどついでになかつた車。  
} 装備袋が乱雑であつた。

良かった真 } 装備袋を2つに分けたのは便利  
} ガソリンのタンクが良かったのでガスも<sup>し</sup>出た。

- 古いテントのフレームの石破せん(風で)
- ガスの調子は良くEssenは直ぐにすんだ。(自費しは鳴るハロミカンがあつた)

装備の量はとくに良かったと思うが、西金庫の研究不足の為にカマチャの量がかし多かつた様に思う。

IFX21とスノーバーは使ったが、とくにだけ使用に耐えうるのか(実際に落ちた場合は)とかうめち(僕はカハロミシ系統にエシム人だとかいふと思う)など問題があると思う。

としかる、古いテントのフレームは弱々しい、予備をもう1.3本持っていてほしいと思う。今回はガスの調子が良かったが、やはりこれは取り扱ひ方が~~よく~~下まは問題だと思ふ。

## 《個人の反省》

今回の合宿はそれほどシビアではなかった。技術的に1年生としては困難な場面にも会わなかったし、体力的にも割りと余力を残して下山出来たと思う。

でもそれは今回が天候に恵まれたせいだろう。雪が少くラッセルがしんどけり山は「バラ」すぎたお出たか「はなはた」遅い。トレーニングも勾配の域を脱しえなかった。入山前の石が凍が不十分だった。  
(川原)

僕は今回の合宿は、1年生として最後という事で、最後は「かりやう」という気持ちで望んだ。登山に「後」あたりから、メンバーの顔が少しも固定してきて、何人かから「登山」目的のものを感したせいもあった。

3日目の時に、雪洞やイワル-作り程度の仕事をやってみた結果より元気がよくなると思う。  
(中村)

やっぱり、~~トレーニング~~ トレーニングが不足した。中山前夜に「毛」はやっぱり3000mを登ったことの証だった。  
(石川)

今回の合宿は日中が「長」かたせいか、あつたかたという同かする。2年生という立場が「し」かり把握できなかつたのでも「た」また「一」歩足りないうかした。

3日目の2日後の「下」泊に行つた時。一番元気を感した。反対には、おま冬山な人が「な」と思つた。技術方面でも「同」工を「同」工つた自分「を」ためす機会が「な」なかつたのが残念だった。  
(山本)

- パックとマス着司をくえたが「¥800」は痛かった。
- 1年生に「い」わねるまで「1」年生の事に「あ」る配ること「が」て「い」い。
- 片山さん、月所田さん、石川さんと「下」泊に行つた日、下り「合」宿で「ア」イセム「同」志し「し」ながら、履物「制」動して「い」つた。
- 雪洞が「下」山「し」て「危」な「ら」なかつた。  
(島谷)

最近、変な意味で山に「慣」れ「て」きて、「さ」さいな「こ」と「あ」つて「も」重要な「事」を「ふ」く「し」「い」か「た」に「す」ま「せ」て「い」る「こ」と「が」「あ」る。その「事」が「多」く「な」つた「こ」の「合」宿「の」時「分」だ。

「初」体「験」が「そ」の「人」の「心」を「し」る。その「意」味「が」「冬」山「は」「1」年「に」お「て」「す」ま「せ」る「こ」の「時」分「だ」。

三つに予想していた程度の名宿だった。構想を考へ山が  
計画を特に主ぬるいは思わぬ。足りない今は有山  
策を、2年生のルートワーク、1年のラッセル技術、それに工務生の  
ルートマインティング、リーダーシップなどに特に強意して計画を  
実施す山が いいと思う。

1年はトレーニングを積むべきだ。

2年生がすくけた。工務生がたんでもないところでは力を  
はかりかち争たが、自えたりけな。たんでもない月利は  
たんでもない争が、常にたんでもないという保正はとこにもない  
事を3月に忘れない様に。

各山前に退部したK君が、幾つか上げた退部理由の中に  
「山での工務生の態度は封建性以外のなにそれだ」と  
云うのがあった。クラブが工務生と封建的でありとも思わぬ  
ある程度の封建性が悪いと思わぬが、自分がラクをする  
事のみが目的の行為をせぬよう注意しようと思えます。

(二保)

穂、穂、周、山で新徒走宿をするとして、どうしてそんたお経の  
こになつてしきうのたうけといやうはなし大部物足りない感じします。

2、3年はもと三つにてもいいのじゃないですか？ 工務生がやる  
方を示してみんなを引寄せてくまになるなと-- ね。

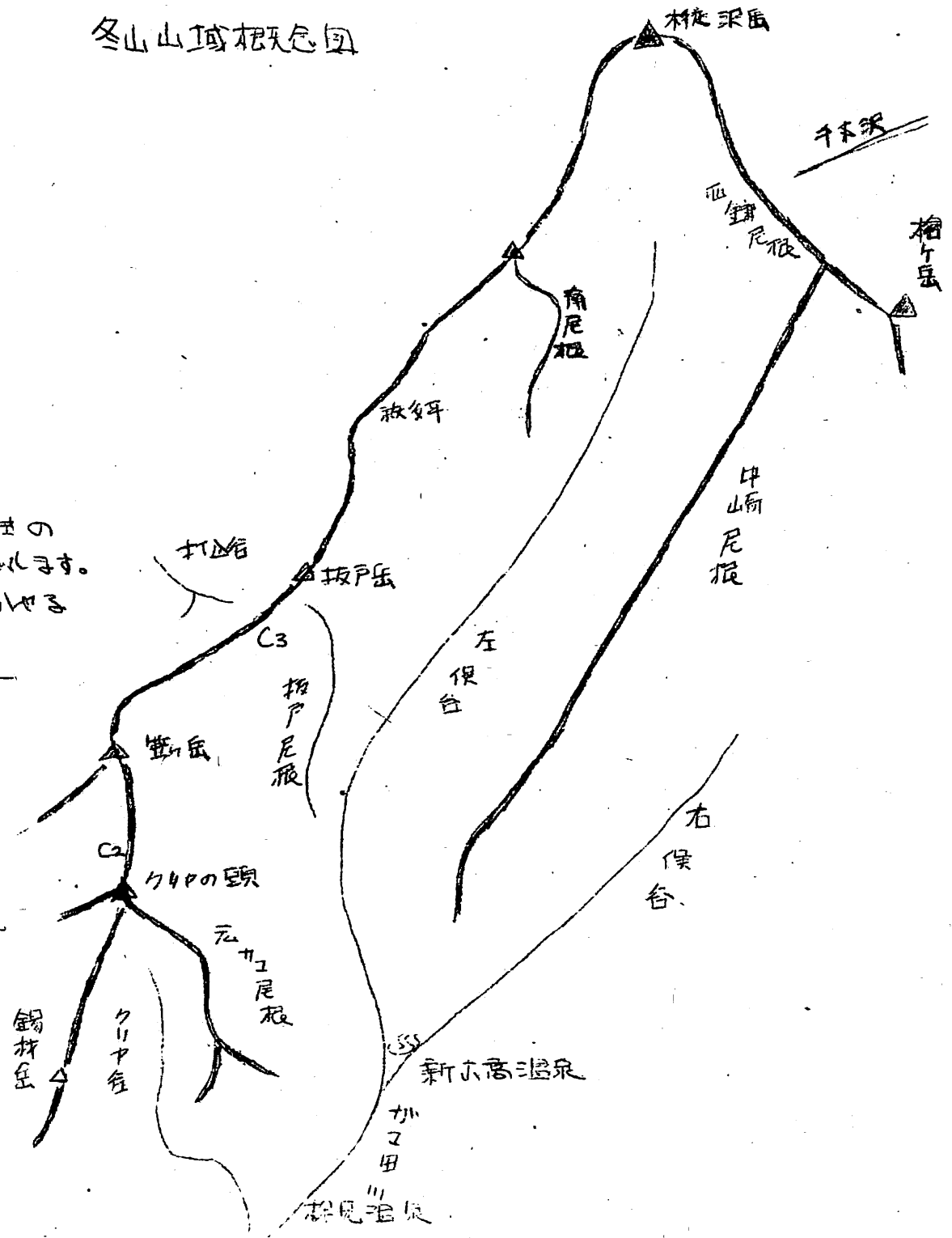
12月 12日 冬山 残り分

- 12月5日 ①-①-①
- 起床 5:15
- 出発 7:00
- 台地前 8:00
- 奥島部落 9:35
- バス 10:30
- 本邸室 11:30

今日は楽しい下山。00  
水谷、山本さん、二保さんは先発朝倉後す  
出発。  
後発隊 1時間ほど先発隊においた。しかし  
隊  
山本さんのいさし行てほのかで、必死におい  
かける。途中は雪が厚く、足が滑り、プルプルと  
増え、足をとる。しかし、右岸根尾利  
はるかに見え。

林道に出てから木靴の為ホクホク足は死んだ。  
(石77)

冬山山域概念図



# Pre冬山合宿

12月2日 - 12月5日

榎 鹿島 檜 東尾根

Member は冬山と同じ(師田を除く)  
目付役 OB 服部 1人

+ 加藤 喜章(2AII)

12月2日(土)

- ① 5:00 思誠寮発 暑い
- ① 5:58 松本馬場発
- ◎ 7:00 大町駅
- ◎ 7:40 大谷原
- ⊗ 8:45 尾根取付土(石巻尾根)
- ⊗ 9:30 雪が本降り、ムシゴト
- ⊗ 10:30 : モモゴト、ワカン・木登り始まる。
- ⊗ 16:00 T.S 一ノ沢の眼下 150m 地奥

## 《感想》

服をいっはい着込んでから高尾まで暑い。大町では雪があったが、行動中は暑い。3 Pitch 目まで雪が三敷くばり、気温も低下。雪も深くばり、か人木のはえた急斜面をまじ登る。Fix 3回。

この時、ワカンをはかした方が登りやすかったのでは。T.S 着4日、大急ぎで設営する。1 Pitch 目の霧雨やほかで大部ぬれた。予がツメた。系論として、やはり冬山入果だと思えた。

えへい、サタテタイト というのに、ラッセルスラッポは"かりや、と、たわい。 [川原]

12月3日(日) ◎ → ①

8:00 T.S ゆっくりしたスピードでラッセル。雪質はやわらかくホッリホッリはいる。

10:45 1の沢見で1本途中で雪が深くばり、空身でラッセル。真に"移系線"という所を快適にラッセル。

12:40 安定したPRで1本。水谷さんが直前に<sup>急に</sup>たつた。

13:30 T.S、景色好みのテント場です。

《感想》

昨日に比ハ木に悩ませられたことはなかったが  
雪質はやほわかく三果イラッセルとなる。しかし昨日  
のFix地帯ほどの急傾斜はなくて、ヤセ尾根  
のラッセルは快適でした。今日の出発予定時刻  
6:30が大幅に遅れた責任はEssen当番  
「島岩、中村、加藤 石渡」のせいです。

[中村]

12月4日(月) ①~④

起床 4:10 ①  
(Essen当)

T.S発 6:10 ① カガ行動

1本 12:35~45 ①

1本 (Fix手前) 8:10~30 ① 昼食(1/2) (小岩と峰上部のカゴツの急傾斜面。岩露出たヤセ尾根)  
Fix 40mm x 2

ホ-岩峰手前 9:30~40 ① アイゼンをワカンに

T.S着 11:25

撤収 11:20

T.S発 12:30

一の沢頭下 13:25~35 往路と違う左岸尾根

T.S着 13:55

《感想》

今日は早朝から風も強くお天気が一日でした。(前日同様)展望  
もなく、初冬の山を三浦喫した。本当はPeakに立って便や  
北の山を望めたからFと、南の山を望めたからFと、  
の山々が見えたからFとします。今日の志求奥壁を日か  
なからの先行は快適でした。アイゼンが何度か  
はかぬたり、帰り、ダウンユにたたりたのからしんどかった。  
今夜は雪かきもりそうではないかな。

[加藤]

# S.I.M.A.C 部員名簿

氏名(血液型) 学部  
 年生日、保護者 学年 部屋

現住所  
 帰省先

吉田秀樹 (B) L-文  
 '53 5.26 (玄光) 4-VI  
 (学籍番号) 7022

松本市泉 3-1-1 思誠寮  
 TEL 0263-35-3962  
 愛知県知多郡東浦町石浜 県営東浦  
 住宅 3-4-205  
 TEL 05628-3-8127

師田信人 (A) M  
 '54 11.21 (昇) 4-V  
 5191 5

松本市元町3丁目 信大芙蓉寮  
 TEL 35-2255  
 足立区神明町40  
 TEL 03-605-3593

二俣勇司 (O) 経  
 '55 6.28 (昌永) 4-V  
 9141

思誠寮 35-3962  
 愛媛県今治市神ノ宮 150-30  
 矢田団地 59 TEL 0898-31-2398

藤元治朗 (AB) M  
 '53 7.10 (寿美) 6-V  
 50879

松本市蟻ヶ崎 2-4-46 (笠原)  
 TEL 33-4111  
 大阪市西成区橋 1-5-2  
 TEL 06-661-9690

岡本真一 (B) A-国  
 '54 11.28 (伊一) 4-V  
 9031

伊那市西箕輪 6710 (守谷)  
 神戸市長田区高取山町 103-2  
 TEL 078-611-5925  
 TEL 026057-8-1309

片山博彦 (A) A-林  
 '56 10.12 (知天) 4-IV  
 0107

伊那市大字伊那 3771 川北荘 6号  
 神戸市東灘区湊森台 4-25  
 TEL 078-841-7500

下田章 (B)  
 '56 2.14 (善吉)  
 0313

伊那市効外 信大中原寮  
 TEL 02657-8-4422  
 茨城県日立市西成沢町 1-26-1  
 TEL 0294-22-1507

田中誠司 (AB)	編	信大中原 寧
54 9-17	A-杯工	京都市下京区油小路五条下ル
1116 (藤本崇子)	3-皿	中金441212 TEL 075-361-4975
加藤喜章 (A)	A-化	伊那市上荒井区17組 若葉荘
58 8-28 (照)	2-II	TEL 02657-2-4845
2406		愛知県岡崎市明大寺町出口 12-36
		TEL 0564-21-7453
島谷寿 (A)	A-杯	松本市横田121 みすず荘 TEL 32-4872
58 8-4 (昌幸)	1-II	長崎市若草町 18-71
2A48		TEL 0958-44-8420
山本雅大 (A)	S-化	思誠寮
58 10-7 (功)	1-II	福岡県田川郡大任町秋永
2S101		TEL 09476-3-2517
石渡健司 (C)	S-物	松本市鼻 2-8-3 (熊合) TEL 33-9239
58 4-17 (輝男)	1-I	杉並区萩窪 2-40-18-5
3S44		TEL 03-392-5405
中村康信 (AB)	S-数	松本市下 <del>井</del> 里山辺下金井 1320
66 2-15 (信二)	1-I	TEL 35-2815
3S26		京都府城陽市大字寺田小学中大小 108番地
		TEL 07745-2-1720
川原修 (A)	A-畜	松本市横田121 みすず荘 TEL 32-4872
58 5-25 (薫)	1-I	<del>35-2815</del>
3A76		香川県高松市仏生山町甲1487-1
		TEL 0878-89-2675
水谷光彦 (A)		伊那市西箕輪大萱 6741 (小坂)
57 7-24 (倉次郎)		TEL 02657-6-6744
2118		目黒区中町 1-13-1
		TEL 03-713-2209